下北地区統合校教育内容等情報交換会（第１回）概要

日時：令和６年１０月８日（火）
１３：３０～１５：００
場所：むつ合同庁舎　２階大会議室

＜出席者＞

山本　隆悦 進行役、伊藤　文一 委員、野呂　政幸 委員、髙坂　一弘 委員、又村　彰 委員、佐々木　一浩 委員、濱田　大臣 委員、木村　努 委員、吉田　成人 委員、阿部　謙一　委員、髙屋　龍一 委員、濱中　亮輔 委員、畑中　祐美子 委員、畑山　元康 委員

１　開会

早野教育次長より挨拶

２　下北地区統合校教育内容等情報交換会実施要項説明

事務局から、資料２により説明

３　事務局説明

（１）青森県立高等学校教育改革推進計画第２期実施計画

事務局から、資料３により説明

（２）下北地区統合校の開設に向けた検討の流れ

事務局から、資料４により説明

委員から次のような質問があった。

○　令和７年度に開設準備委員会を設置し、協議結果等を踏まえ、令和８年度の開設準備室で具体的な準備を進めていくこととなると思うが、むつ市が設置した下北地区統合校検討委員会で挙げられた意見は、どの段階で取り扱うのか。

　また、様々協議する事項があるが、下北地区統合校教育内容等情報交換会で協議する優先順位等はあるのか。

→（事務局）下北地区統合校検討委員会で挙げられた意見については、同検討委員会の設置趣旨を踏まえ、開設準備委員会に繋げることとしている。

　また、本情報交換会の開催趣旨は、開設準備委員会での検討を更に充実させるものであり、開設準備委員会で協議する事項のうち、教育内容に関する事項について意見交換していただきたい。

　開設準備委員会では、本情報交換会で挙げられた意見も踏まえ、統合校の方向性について、議論していただきたい。

進行役から次のような発言があり、情報交換会の開催趣旨を確認した。

○　本情報交換会では、統合校の方向性を絞り込むのではなく、令和７年度に設置される開設準備委員会における検討をさらに充実させるため、挙げられた意見をまとめた上で、開設準備委員会に提出することとする。

４　学校紹介

進行役から統合対象校の校長に対し、それぞれの学校の特色ある教育活動等について説明を求めた。

（１）大湊高校（伊藤委員）

○　本校は、普通科の高校と、職業教育を主とする専門学科の高校の２つの高校の良さを併せ持った総合学科の学校であり、人文科学、自然科学、健康福祉、情報ビジネスの４系列を設置し、生徒の進路志望に対応できるようにしている。

○　地域や大学等との連携などによる学びの充実にも取り組んでいる。

○　キャリア教育の充実に取り組んでおり、総合学科の生徒が履修する「産業社会と人間」という科目において、令和６年度は、外部人材を活用し、起業家教育などを行っている。

○　本校では、総合的な探究の時間を「針路学」と呼び、自分の進路について幅広く学んでおり、本校の教職員だけではなく、外部人材も活用している。

○　４系列で共通して履修できる自由選択科目を開設し、学びに幅を持たせている。

○　進路状況については、令和６年３月の卒業生約１４０名中、進学が約１００名、就職等は約４０名となっている。

進学については、国公立大学への進学が１５名となっている。また、様々な体験を通して就職することができるなど、視野を広くして進路選択ができる学校となっている。

（２）むつ工業高校（野呂委員）

○　本校は、昭和３９年に機械科、電気科の２つの学科でスタートしており、昭和４６年に、現在の設備・エネルギー科の前身である設備工業科が設置された。平成３年に、電子機械科と電子科が設置され、５学科５学級という大規模な学校であったが、学科の再編により、電子機械科、電子科が廃止され、現在の機械科、電気科、設備・エネルギー科の３学科３学級となった。

○　本校の校訓は、「自立」となっており、基本的な生活習慣の確立や、望ましい職業観･勤労観の定着､様々な困難を自ら解決する力の育成などにより、社会人として、そして人間として経済的・精神的・健康的な自立の確立を目指したものとなっている。

○　むつ市や青森県、エネルギー庁などの協力による県内外の原子力エネルギー関係施設の見学会や、エネルギー核燃料サイクル政策を学ぶ出前授業等を行っている。

○　ものづくりマイスターによる実技指導や、県立むつ養護学校とのものづくり交流、風間浦村との連携による海洋エネルギーの研究に取り組んでいる。

　また、企業の協力を得て、機械加工や溶接等の実技指導や、電気工事などの電気に関することや最新のドローンや３Ｄレーザースキャナーを使った測量に関することなどの出前授業等に取り組んでいる。

○　ＪＡＭＳＴＥＣとの簡易風向風速センサーの開発や、企業との連携による可塑性プラスチックの再成形装置などの共同開発等に取り組んでいる。

○　青森原燃テクノロジーセンターで行われているイベントで、本校の生徒が小学生を対象にしたものづくり体験ブースを提供している。

○　あおもり創造学の一環として、下北ジオパークの基本的な知識の習得や、地域の文化・歴史についての学び、地元の理解を深めるための出前授業等も行っている。

○　日々の学習による基礎的な知識を基に、地域の協力を得て、ものづくり教育を柱とする探究型学習の充実を図っている。

　生徒は、この教育活動を通して、身近な地域の課題を発見し、その課題を主体的に解決することで郷土愛を育み、地域を良くしていこうとする当事者意識を醸成させている。

　また、地域を支える人財の育成として、実践的な知識・技能を身に付け、地域や産業界に即戦力として貢献できる工業人の育成を目指している。

　さらに、職業人として自立していくために必要な能力や態度を身に付けることができるよう、３年間を見通した系統的なキャリア教育に取り組んでおり、生徒の希望する進路の実現に向けて、生徒、保護者、教職員の連携を密にし、情報共有を図りながら、高校入学直後から計画的なキャリア教育の指導体制を構築している。

○　過去３年分の進路実績を平均化すると、約８０％が就職であり、そのうち、県内就職が４６．７％、県外就職が４４．４％、公務員が８．９％である。

　就職先を職業別で比較すると、専門的・技術的職業、生産工程の職業、保安の職業が多くなっている。また、産業別で比較すると、製造業が最も多く、続いて専門・技術サービス業となっており、３年間で学んだ知識・技術を生かせる職業を選択する生徒の割合が非常に高くなっている。

　また、ここ数年の傾向としては、県内就職希望者の割合が県外就職希望者に比べて若干高くなっている。

○　進学は約２０％であり、そのうち、４年制大学が３５．０％、八戸高専への編入や短期大学が８．３％、専修学校が４１．０％、公共職業能力開発施設が１５．７％となっている。

○　令和６年３月の卒業生は、就職の割合が８４．０％、進学の割合が１４．７％となっている。このうち県内就職の割合が４７．６％、県外就職の割合が３８．１％、公務員が１４．３％となっている。

５　意見交換

（１）目指す人財像・学校像について

委員から、次のような意見があった。

○　大湊高校では、幅広い視野を持ち、先行きが不透明な時代に対応できる人財を育成しているところであり、統合校でも、社会貢献に取り組むとともに、主体性や他者を尊重する心、社会の発展を担うような幅広い視野を持った人財を育成したい。

○　むつ工業高校では、目指す人財像を

・工業分野において専門知識、技術を身に付けて、自立した社会人として地域に貢献する人財
・基本的な生活習慣を確立して、心身ともに健康で、新しい時代を主体的に切り開いていく人財
・豊かな人間性や社会性を有し、地域社会の発展と活性化に向けて貢献できる人財

としており、その実現に向け、

・地域企業や研究機関との連携による実践的な学びを深め、生徒の課題解決能力の向上を目指す学校
・ものづくりや資格取得を積極的に奨励し、生徒の確かな知識・技術の習得と創造性の向上を目指す学校
・基礎的、基本的学力の定着とその深化を図り、生徒の新しい時代の学問や職業分野に関する専門知識・技術の習得を目指す学校

を学校像として示している。

これらの現状も踏まえ、統合校の目指す人財像は、

・地域の現状を理解し、地域の課題発見とその解決に向けて主体的・協働的に取り組むことで、地域の発展的な展望に寄与する人財
・工業分野における専門知識・技術、正しい工業倫理感を身に付け、職業人として新たな価値を創造し、より良い地域社会を実現しようとする人財
・国際社会で通用する能力やグローバルな視点を有し、地域社会や地域経済の活性化、産業の持続的な発展に貢献するとともに、国内外に情報を発信する能力を備えた人財
・自立した工業人として新しい時代を生き抜く起業家精神と起業家的資質・能力を備えた人財

とし、その実現に向け、目指す学校像は、

・探究型の学習活動など、地域や社会にある課題の解決に向けた実践的な取組により、郷土を愛する心の醸成、主体的に課題を解決する能力、地域に

価値を見い出し、地域ブランドを確立する能力を育成する学校
・地域企業や研究機関、自治体との産学官共同による実践的な学びを通して、確かな専門知識・技術や工業人として工業倫理感、高度な資格の取得に向けた効果的な指導体制と環境の充実による実践的専門知識の習得、未知の領域へ果敢に挑戦し、新しい価値を見い出そうとする能力を育成する学校
・教科横断的学習活動や、総合学科と工業科の横断的学習活動の充実を通して、共感的理解の実践、多様性の尊重、異文化や価値観の理解、語学力とコミュニケーションスキル、マーケティング知識・スキル、情報モラルを含む情報収集及び処理能力を育成する学校
・アントレプレナーシップ教育の充実を通して、起業家精神と起業家的資質・能力、校内のキャリア教育の充実、小学校・中学校・高校の継続的なキャリア教育の地域拠点と地域の活性化、社会の課題や困難に対し、自ら主体的に働きかけ、新たな価値を見い出す力を育成する学校

とするのはどうか。

○　地域のことを知る取組は、継続していく必要がある。この地域には、斗南藩やジオパークなど様々歴史があるので、そのようなことも学んでほしい。歴史を学ぶことで、地域に愛着を持つことができる。

また、就職に関しては、アントレプレナーシップをどのように教育するのかというのは非常に大切である。

さらに、就職の面接指導を地元の経営者が行うなど、地域の会社や人との関わりを増やしてほしい。

○　下北地方中学校長会では、地元企業が求める人財を育成するための学科の設置が意見として多く挙げられた。

また、工業科の生徒が総合学科の授業を履修して、ライセンス取得するなど、学科・系列の枠を超えて、生徒が履修できるような学校としてほしい。

さらに、中学生が統合校に進学することにより、何を学ぶことができるのか、どのような進路選択ができるのかということを明確にし、理解できるような形にする必要があるという意見が挙げられた。

○　地元の企業が求めている資格や技術などを考慮した上で、学科を検討してほしい。

（２）特色ある教育活動について

委員から、次のような意見があった。

○　大湊高校では、探究活動として、１年次には、地域を支えている企業の方々を取材するなど、地域について学ぶとともに、起業家に必要とされるマインドや資質・能力を養うため、起業家教育にも取り組んでいる。

２年次には、下北ジオパークについて学ぶ活動をしており、東通エリア、大間・仏ヶ浦エリア、恐山・薬研エリア、大湊・川内エリアの４つのコースに分かれて、自然観察や施設見学、インタビュー活動を行い、自然、産業、文化などについて学んでいる。

３年次には、１年次・２年次の活動をまとめ、自分のテーマを設定し、研究成果をポスターで発表しており、このような探究活動は統合校でも継続したい。

また、「外まなび部」という活動があり、様々なコンクールや、講演会、ボランティア活動を生徒に案内し、参加してもらっている。この外まなび部の活動の中に、「下北ＢＯＵＳＡＩネットワーク」という、本校と田名部高校、むつ工業高校、大間高校、むつ養護の下北の学校５校で行う活動があり、日本ジオパーク全国大会で発表するなど、同様の取組を行っている高校の中でも突出した成果を収めており、これらの外まなび部の活動は、統合校でも継続したい。

○　引継ぎが考えられる内容として、資格取得、特に、第三種電気主任技術者の認定条件を満たす履修教科・科目、授業時数、単位数の設定が挙げられる。

また、地域との交流や地域への貢献、企業・研究機関との連携による共同開発などは統合校でも継続したい。

○　新たな内容として、総合学科と工業科の連携や併置によるメリットを生かした学科・系列等の横断的な学びや、探究型学習活動の充実と深化ができる。

学科・系列を超えた教科・科目の履修選択として、例えば、健康福祉系列の福祉コースと工業科の連携により、ユニバーサルデザインや地域の医療福祉分野に関する調査研究などを通して、地域のニーズに合ったものづくり教育の充実が期待できる。

また、情報ビジネス系列と工業科の連携により、情報コースにおいて、資格指導の充実や、情報技術分野の知識・技術の高度化によるビッグデータの解析・活用方法などを学ぶことができ、地域で活躍できるデータサイエンティストの育成が期待できる。

さらに、ビジネスコースでは、商業と工業科が連携することで、ビジネスの創生教育の確立により、多面的な地域課題を発見し、課題の解決に向けてものづくり教育でつくり上げた製品を活用して、地域ブランディング力や、地域の魅力を外部に伝えるマーケティング力を育成することができ、アントレプレナーシップ教育の充実が期待できる。

また、自然科学系列と工業科が連携することで、製品の共同開発、試作、

データ分析を行い、それを生かした製品開発に繋げるといったものづくりの一連の形態を学校の中でつくり上げることができる。

○　キャリア教育の充実として、実践型のインターンシップの拡大や、地域の小学校・中学校・高校による系統的なキャリア教育の構築など、統合対象校両校が持っているキャリア教育の指導力の融合によって、指導方法の充実と、生徒の多様な進路への対応が可能となる。

○　現在も両校で行っている成果発表など、非常に魅力的な取組を行っているが、中学生は、高校でどのような学びを行っているのか分かっていない。自分の夢があり、下北地区から他地区に進学する中学生もいるが、できる限り下北地区の中学生は、この地区で学び、育ってもらいたい。こどもの数が減っている中において、地元に根づいてもらうためにも、成果発表などの魅力的な取組については、今年度以降、大湊高校、むつ工業の両校において、中学校へ出前授業を行うなど、地元の高校を知ってもらうとともに、統合校においても継続して実施してもらいたい。

○　ＰＴＡ会費も学校の授業以外の活動費の一部となっており、それが教育活動の充実にもつながっている。教育活動の充実や各校が目指す人財の育成のためには、外部講師を招聘するなどの対応が必要である。

　令和９年度からの２年間は、むつ工業高校、大湊高校、統合校の３校が設置されることとなるが、令和９年度は、むつ工業高校、大湊高校は２・３年生、統合校は１年生のみ、令和１０年度は、むつ工業高校、大湊高校は３年生のみ、統合校は１年生・２年生となる状況において、教育活動や行事等は維持していく必要があるが、ＰＴＡ会費は減少することとなる。ＰＴＡ会費の減少分への対応として、県で予算措置はするのか。

→（事務局）それぞれの学校の教育活動の中で、授業に関すること以外で、ＰＴＡ会費や後援会費などの私費から支出している事例は承知しているが、私費において対応している教育活動に対し、統合によって、新たに予算措置をする事例はない状況である。

○　行事なども含め在籍生徒たちの教育活動の充実のためには、各校において、ＰＴＡ会費の臨時徴収などで対応していくこととなるのか。

　また、ＰＴＡ会費などの私費は、ある一定額を貯蓄している状況であるが、今後の取扱いについて、県では関与しないのか。

→（事務局）私費については県で関与することはない。

○　各校でどのような学びを行っているかについては、様々な機会を活用し、発信していくべきである。

　また、小学校・中学校・高校の連携した取組については、具体的な部分を考えていく必要があるが、このような連携の取組を通して、大湊高校で実践してきた総合学科としての特色や、むつ工業高校で実践している工業教育系としての特色を明確に中学生に伝えることができると考える。

　さらに、資格については、第三種電気主任技術者認定校は維持すべきである。就職する際に、資格は必要となってくるものであり、例えば、下北地区だと風力発電が発達してきており、その管理をするのには、第三種電気主任技術者より上位の第二種電気主任技術者や第一種電気主任技術者の資格が必要になってくる。第二種電気主任技術者や第一種電気主任技術の資格取得には、第三種電気主任技術者を取得した上で、経験を積むことにより可能となるため、第三種電気主任技術者の資格取得に向けた取組はこれからも継続してほしい。

○　第２期実施計画によると、令和５年の中学校卒業者数の見込みが５３０名となっており、その後、年々減少していく。昨年のむつ市の出生者数は、２２２名であり、こどもの数が減少していく中において、将来的に、田名部高校と統合校を１つに統合するのか、あるいは、両校を継続して設置するのかといった方向性は決まっているのか。

→（事務局）令和１０年度以降の学校配置の方向性については、昨年５月に県教育委員会が設置した「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」において、現在検討を進めているところであり、検討結果報告を受けた後に、整理していくこととしている。

○　学校の規模や教育内容については、こどもの数も影響してくるため、こどもの数が減少する中において、どのように学校を作っていくのかといった視点も必要だと考える。

○　両校から出された目指す人財像・学校像、特色ある教育活動に関する意見については、賛成であり、それをどうのように形にしていくかを考えていく必要がある。

　大湊高校については、希望者が少なくても、簿記などを科目として開設しており、教職員は、きめ細かな対応をしてくれている。その対応が生徒の学ぶ意欲の向上や資格取得にもつながっている。

　また、むつ工業高校については、就職に強い学校であり、教職員は、部活動が終了してから企業を訪問するなど熱心に取り組んでおり、それぞれの高校において特色ある教育活動等を実践していると感じている。

　しかし、下北地区において５年ごとに中学校卒業者数が約１００人ずつ減る中、令和１４年度には、統合校の令和９年度の学級数の維持が難しくなることも想定される。そのような中、充実した教育活動を維持するためには、

学科・系列を超えた教科・科目の履修に加え、近隣の高校との連携による教科・科目の充実や、オンラインでも単位取得ができる制度が必要である。

○　統合校でも、充実した教育活動を維持しながら、ふるさとを愛し、ふるさとを知った上で、社会で活躍できる人財の育成を目指していく必要がある。

○　地域が求めている人財を育成するために開設する教科・科目と中学生の進路選択との間にミスマッチがある。そのミスマッチを防ぐために、小・中学校において、地域の状況や、高校での学びをこどもたちに理解してもらう必要があり、小・中学校との連携等を強化していく必要がある。

○　下北地区は、他地区と異なり他市町村への通学を行う場合には、２時間以上かかることを踏まえると、地区内で学びの充実を図る必要があり、そのことを念頭に置きながら、教育活動等について考えていく必要がある。

○　現在、下北地区に設置されている定時制課程は、田名部高校だけであるが、定時制課程に進学する中学生が増えてきている。また、工業を学びたいが、全日制課程への進学は難しく、田名部高校の定時制課程に進学している中学生もいることから、統合校に工業科の定時制課程を設置することで、中学生のニーズに対応できるのではないか。

　また、統合校については、校舎も新しくなり、魅力ある学校となっていく中、遠方からも通学する生徒が増えてくることも考えられるため、寮などの環境整備も必要になってくると考える。

○　令和９年度で大湊高校、むつ工業高校の両校が募集停止になるが、募集停止となる両校を中学生が選ばなくなるのではないかと危惧している。県教育委員会としてどのように考えているのか。

→（事務局）令和９年度に両校は募集停止となるが、募集停止までは、これまでと変わらない教育活動を行っていることから、中学生の進路志望の結果によるものになると考えている。なお、第２期実施計画にもあるように、統合の対象となる高校に入学した生徒は、入学した学校で学び、卒業することとしている。

○　学びについての意見交換も大切であるが、校舎が新たに整備されることを踏まえると施設設備に関するスケジュール等について意見交換をする必要があると考えている。

　特に、グラウンドについて、統合校がむつ工業高校のグラウンドに建設されることから、むつ工業高校の生徒と統合校の生徒の部活動の活動場所が、むつ工業高校の校舎を解体するまでの間、どこでやるのか不明確である。

　また、寮の設置について、むつ市が開催した下北地区統合校検討委員会においても意見を出した際、農業高校と水産高校に設置しているとの回答であったが、あまり納得がいかなかった。県の方で寮の設置についての規定があるのであれば、そのような規定も変更していくことが考えられる。

→（事務局）施設設備に関する意見交換については、事務局で調整を図りながら検討したい。

　また、寮については、学びの特性を踏まえ、教育的効果を更に高めることなどを目的として農業高校及び水産高校に設置している。遠方から進学することを設置の趣旨とした寮ではないということで御理解いただきたい。

事務局に対し、今回挙げられた意見を整理して、次回の情報交換会で提示するよう、進行役から指示があった。

６　閉会